

トキワ荘にいたあの頃は、
ただ楽しかったよ。



撮影＝広瀬達郎（新潮社写真部）

トキワ荘最後の住人山内ジョージ展 「マンガから世界の文字絵」へ

満州から宮城そしてトキワ荘 — さらにカンボジアへ

あたたかくユーモアにあふれたマンガ・イラストで子どもたちの心を明るく照らしている山内ジョージさん。

若きマンガ家たちが集まって研鑽を重ねた当時を知る生き証人として、トキワ荘マンガミュージアムの開設にも尽力してくださいました。

そして現在はカンボジアなど東南アジアの子ども・女性支援活動でも活躍されています。

80歳の今も精力的に活躍されている山内ジョージさんの創作活動、そしてアジアの子ども・女性支援活動にまつわる本やゆかりの資料を紹介します。貸出できる本も多数そろえてご紹介します。ぜひおこしください。

【会期】2021年 **2月27日(土)～5月27日(木)**

中央図書館休館日は除く。新型コロナウイルス感染防止等により会期が変更になる場合があります。

【会場】 **豊島区立中央図書館 5階**

主催：豊島区立中央図書館 後援：公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)

満州で生まれ、宮城県へ引き揚げる。

山内ジョージ氏（本名・山内紀之）は1940年（昭和15年）満州国・大連で生まれた。警察官だった父は敗戦後シベリアに抑留され37歳で死亡。山内氏は母と兄弟と命がけで引き揚げ、父の故郷宮城県登米市に身を寄せる。

手塚治虫氏のアドバイス「たくさん本を読んで たくさん映画を見なさい」を受け、地元の図書館・ 映画館に通いつめる。

子どものころからマンガが好きで、手塚治虫氏にファンレターやマンガの描き方の質問をたびたび送っていた。手塚氏は忙しい仕事の合間に返事や描き損じの原稿、会報誌『虫ニュース』などを送ってくれた。感激した山内少年はマンガ家をめざす。手塚氏の「たくさん本や映画に触れなさい。」とのアドバイスに従い地元の図書館に通い多くの本を読み映画館に通いつめた。中学2年生のとき地元の新聞『河北新報』の「こども漫画大会」に入賞、それを機に隣町の小野寺章太郎氏（のちの石ノ森章太郎）と出会う。

上京し若きマンガ家の集うトキワ荘へ 東京オリンピックを契機に、マンガのユーモアとイラストを 融合した『動物文字絵』を生みだす。

1960年（昭和35年）石ノ森章太郎氏のアシスタントとして東京都豊島区椎名町（現・南長崎）のトキワ荘へ入居。1962年（昭和37年）までトキワ荘で暮らす。東京でフランスのサヴィニャックやイギリスのホグナング作品に触れ広告イラストに興味を持つ。東京オリンピックを機にイラストレーターの活躍が目立つようになる。その世相を受けマンガとイラストを融合したイラストレーションに機運を見出し動物を文字になぞらえた『動物文字絵』を生みだす。『動物文字絵』は小学生の国語教科書に掲載され、子どもたちにひろく親しまれた。

ペン・セタリン氏との出会いを機にカンボジアの子どもたちの ための教科書を協力して作りあげる。

中国帰国者家庭の子どもへのボランティアを機にカンボジアの子どもたちの支援活動を行うペン・セタリン氏と出会い、カンボジアの国語の教科書の作成に尽力し、子どもや女性たちの識字率の向上に貢献した。ユーモアあふれるイラストは、傷ついた子どもたちの心をやさしく癒し女性たちの識字率が高まることで就労や起業の促進を助け、子どもの健康を守ることに大きな貢献をもたらしている。

アジアへ、そしてパリへ 文字絵で世界と文化交流

2015年（平成27年）には、パリの日本文化会館から依頼があり、制作費・渡航費をほぼ自腹でまかないパリでの文字絵展の開催に挑戦し好評を博した。本展示を通して山内ジョージ氏のあたたかく思いやりにあふれた人柄、そして何歳になっても新しいことに挑戦し発展しつづけることの素晴らしさに触れてもらいたい。



『逆襲』

山内氏が中学2年生の時に地元新聞社へ投稿した作品
(提供：山内ジョージ氏)



識字教育の教材にもなっている山内氏の文字絵
(提供：山内ジョージ氏)



ペン・セタリン氏と山内氏(左)
(提供：山内ジョージ氏)

【 お問合せ 】

豊島区立中央図書館 TEL 03-3983-7861
豊島区東池袋4-5-2ライズアリーナビル 4階・5階
HP: <https://www.library.toshima.tokyo.jp/>

